2025年度
地域合同勉強会について

箕面市立病院　NST

開催概要

日　　時：　令和7年9月4日（木）17:15～18:30

場　　所：　箪面市立病院　ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ４Ｆ　いろはホール

テーマ：　「胃ろうは在宅療養の心強い味方！
～安心できるケアを身につけよう～」

講　　師：　医療法人財団 康生会 武田病院
患者サポートセンター 特定看護師　山田 圭子先生

座　　長：　箪面市立病院　NST／外科　東口 公哉 先生

情報提供：　（株）大塚製薬工場、カーディナルヘルス(株)

タイムスケジュール

17：15～　開幕、(株)大塚製薬工場からイノソリッド紹介
17：20～　講義開始
17：50～　実技開始
18：20～　質疑応答
18：30　　閉幕

実技時間の様子

参加者

- 地域・・・医師2名、看護師2名、 MSW3名、施設長1名

- 病院・・・医師9名、看護師17名、薬剤師3名、管理栄養士8名、
  ST1名、PT1名、事務2名、実地修練者22名、学生4名

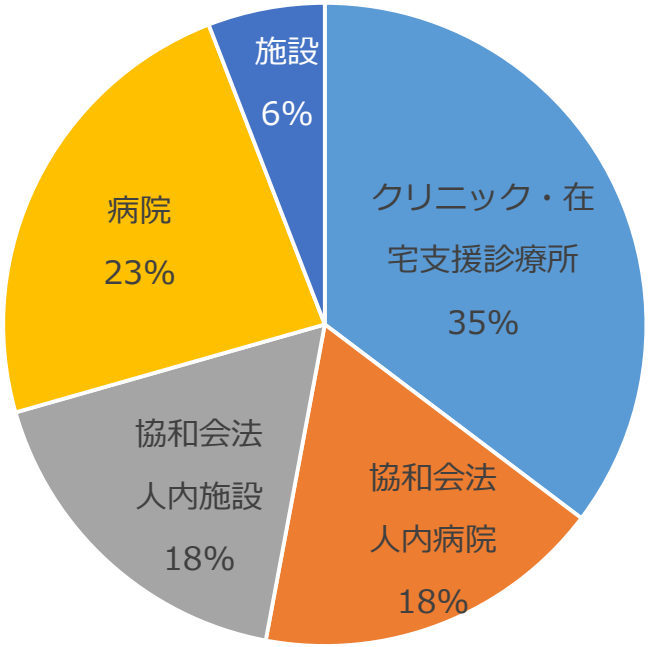
- zoom視聴者・・・最大39名

合計 114名

アンケート結果（現地＋ZOOM）

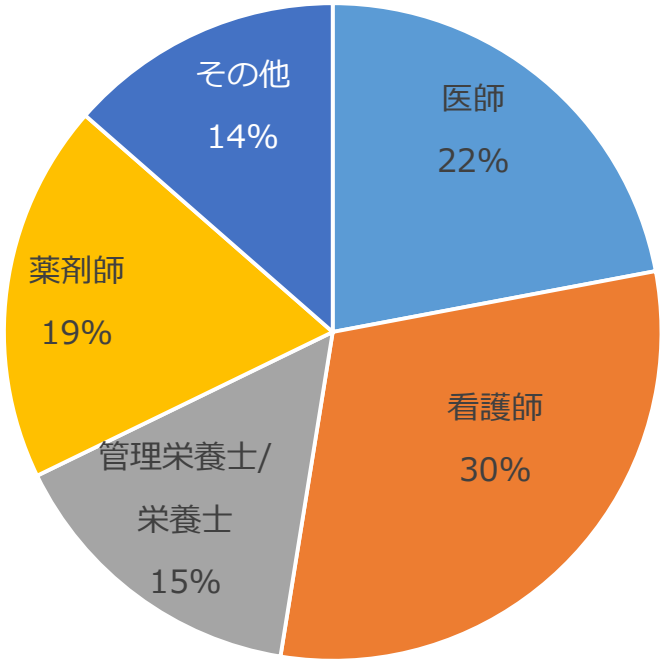
外部からの参加者所属施設

n=17

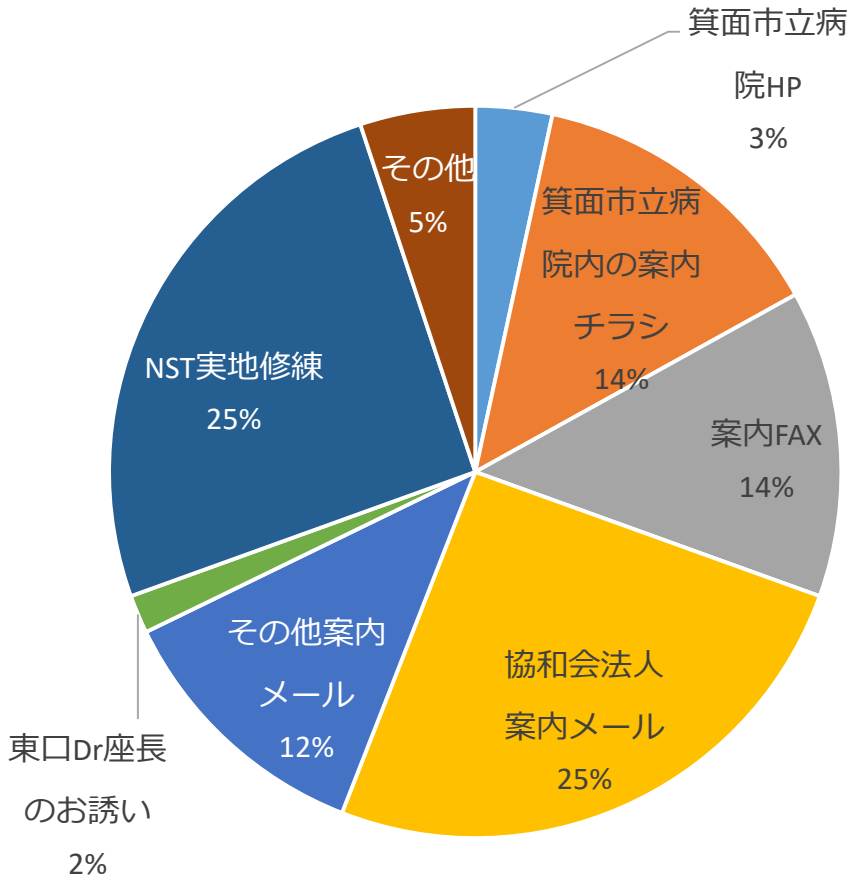


職種

n=59

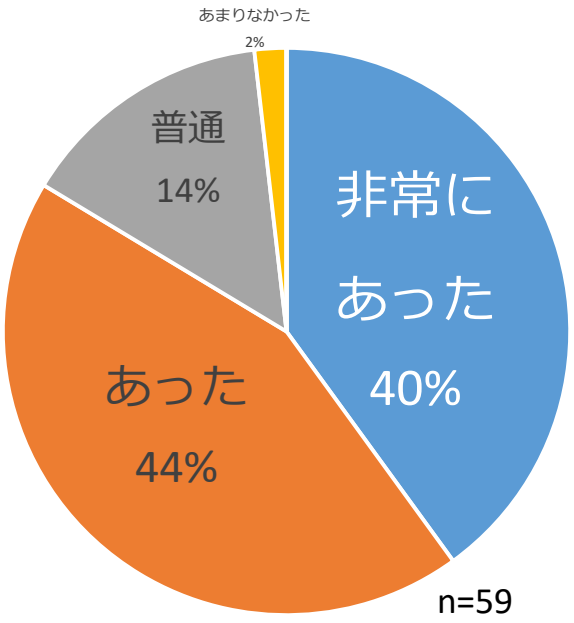


どこで知ったか　n=59

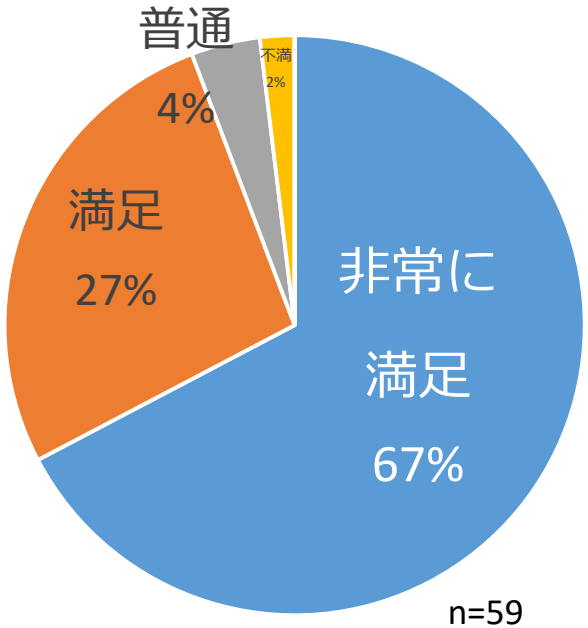


アンケート結果（現地＋ZOOM）

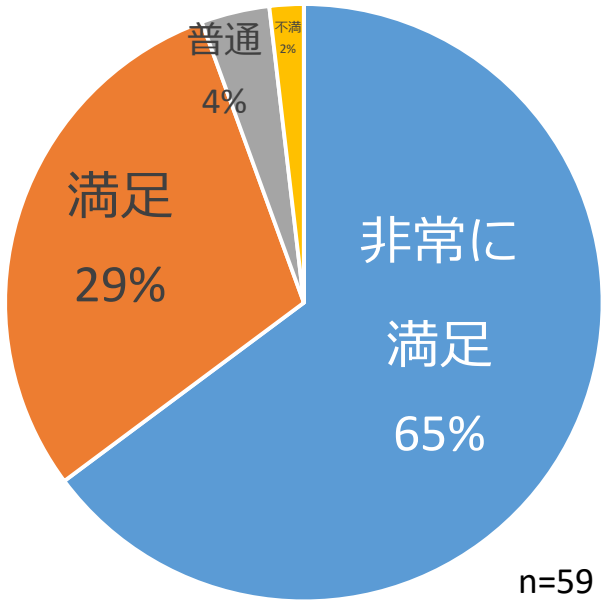
自分の仕事との関連性
役立つ部分があったか



本日の講演は
いかがでしたでしょうか【内容】



本日の講演は
いかがでしたでしょうか【わかりやすさ】



ご意見・ご感想

- 模型を使用して実際にみることがすごくわかりやすかったです。
- ハンズオンが分かりやすかった
- 実技良かったです
- 実技できて勉強になりました
- 実技は体験することがないので勉強になりました
- 普段みることのできない胃ろうについて実際みることができ良かったです
- 胃ろうについて初めて知ることがばかりでとても勉強になりました。ありがとうございました。
- 検査依頼で目にする、耳にすることがあったのでよくわかった。
- 実際見る、さわる、という機会がない為、分かりやすい講演だった。理解したうえでの支援ができるようつとめたい
- 実技もあって楽しく勉強できました。胃ろうの対応のあたりをもう少しくわしくお聞きしたかったです。ありがとうございました。
- 本日学んだことを職場でも今後のケアに生かしていきたいと思います。
- 在宅などの管理方法がよく分かった。

ご意見・ご感想

- PEG選択が出来た例、本人様、家族様に受け入れてもらえて良かったと思います。
- 医療者と本人様、家族様の間に思いの差があり、実際に難しいケースも多い、本人様、家族様の希望に沿った看護（援助）、退院支援をしていきたいです。
- PEGについて学びなおす機会になりました。ありがとうございました。

今後の地域合同勉強会で取り上げてほしい内容

- 小児のこともお願いします
- 褥瘡ケアについて×２
- 在宅療養中の食事について（ミキサー食、ゼリー食の提供）

事前質問に対する先生からの回答

※当日回答できなかった質問に対して、回答をいただきました

① 在宅でSTとして胃瘻造設患者をフォローしていると、案外経口摂取可能な方が少なくなく、実際に3食経口摂取を取り戻される方もいらっしゃいます。ただ一方で、食意欲については低下する方が多いように感じます。
そもそもの嚥下機能や加齢要因、進行性などの疾患要因、胃瘻造設を提案される担当科にもよると思いますが、造設に至る説明の中で、リハビリによって嚥下機能が回復する見込みについては一般的にどのようなお話をされるのでしょうか？
また、どのくらいの割合がST評価やVFやVEなどの嚥下機能精査を受けずして造設に至るものなのでしょうか？

⇒造設後のリハビリによっての嚥下機能がどのくらい回復するのか見込みについてですが、造設前には、基本的に全例VEでの嚥下評価をしています。経口摂取併用、お楽しみ程度、経口不可にわけられると思います。
ただ、病院ではリスクを重んじて慎重な評価になっている（状態が不安定な時期での嚥下評価である）場合もあります。
退院後、状態が安定して経口摂取が進む方もおられると思いますので、タイミングをみて在宅でも嚥下評価は必要だと思います。食べるための胃ろうですから。
診療報酬としては、胃瘻造設術；6070点＋胃瘻造設時嚥下機能評価加算；2500点になっています。

②私事で強縮ですが、我が家の母も経管栄養を行っています。
胃瘻造設当初は、バンパー式でしたが、交換のために増設した北野病院の受診が必要、トラブルのたびに受診。そのたびに家族の付き添いが必要なので就労している家族としては大変でした。
現在、かかりつけのホームドクターが簡単に交換可能なバルンタイプに変更しています。
在宅療養の現状として、どんな物を使用しどういうところで交換されているのかお聞きすることができれば、お聞きしたいです。

⇒デバイスの特徴はPEGスキンケアポケットブックを見てください。
やはり在宅では、6か月ごとに病院に連れていくことが困難な方は在宅医がバルン型にされて1か月ごとに交換されています。
バルン型の場合は、固定水に穴があいたりして抜去するリスクは高いです。しかし、病院受診の負担が減り家族にとってはメリットだと思います。在宅医はバルン型の交換、病院ではバルン型もバンパー型も行っています。

ありがとうございました！